

平成27年度学校評価表

島根県立宍道高等学校

教育目標		評価計画				自己評価						学校関係者評価		次年度への改善策
教育目標	教育目標達成のための指針	重点目標	目標達成のための方策	担当分掌	評価指標	目標値 [a] (昨年)	評価値 <定時> (昨年比)	評価値 <通信> (昨年比)	評価値 [b] (昨年比)	達成指数 [b/a] (昨年)	評価 (昨年)	結果と課題の記述	評価	
調和のとれた感性豊かな人間の育成	主体的に学ぶ意欲の育成	学力の向上	わかる学習指導の実践 ○授業の大切さを理解させる ○少人数指導・授業の工夫 ○単位修得率の向上	教務	全講座の平均出席率(定時)	85%	79.5%	—	79.5%	93.5	B	・担任を中心に登校を促す働きかけをするとともに、授業の大切さを訴え続けた結果、昨年よりも数値が向上している。過去に不登校を経験した生徒が多く在籍している状況を考えて、生徒たちはよく頑張っている。「わかる授業」づくりも出席率の向上につながっていると考える。ただ、各学年次に数かずつ長期間欠席が続く生徒がいるので、引き続き担任、学年次会と連携して、状況把握に努め、授業への出席を促していきたい。 ・本校が少人数指導であることをよく理解し、それを動機として入学してくる生徒が多い。そのため「そう思う」、「大体そう思う(大体良い)」を合わせて95.7%と、4年連続で目標値を超えている。生徒に支持された本校の特色として、指導の方法について工夫を重ねながら、今後も充実を図りたい。 ・現在の通信制のシステムが良く理解され、スクーリングがレポート作成に上手く利用されている結果であると考えられる。また、レポート添削の速さ、適切さに対する満足感もあると思われる。今後も生徒一人ひとりの学力に応じた指導を丁寧に行っていく。	A	・不登校で長期欠席の生徒に対しては、生徒の状況に配慮しながらできるだけ単位を修得できるようにサポートしていきたい。 ・授業公開旬間については、前年度の取り組みをまとめた資料を事前に全教員に配布したことで、授業見学の際の視点が明確になったと思われる。今後は、被見学回数の均等化、見学者・授業者から提出された「振り返りシート」等の活用法など、授業力・指導力の向上につなげられるような取り組みをしていく必要がある。また、個々の教員の授業力を高めることが、生徒の学力向上につながるということを共通認識として取り組んでいきたい。 ・定時制の全講座平均出席率は一昨年度、昨年度より改善しており、79.5%となった。また、一単位でも単位を修得した生徒の割合は最終的には85.8%となった。こうしたことから、多様な生徒が在籍する本校定時制では、講座への出席率と単位修得率は関連があると考えられるので、ルーム担任やコーディネーター、保護者等と連携を深めながら、引き続き講座への出席を促していきたい。また、わかる授業を展開することも出席率には関連があると思われるので、前述の取り組みを生かしながら魅力ある授業を心がけたい。 ・図書館の利用についてのアンケート結果を見ると、定時制と通信制では評価に差があるが、できるだけ支障なく満足度の高い対応はできないのか。
					少人数指導が自分に合っていると感じている生徒の割合(定時)	85%	95.7%	—	95.7%	112.6	A			
					スクーリングやレポート添削の内容に満足している生徒の割合(通信)	85%	—	91.2%	91.2%	107.3	A			
					単位を修得した生徒の割合	85%	85.8%	51.2%	68.5%	80.6	B			
					互見授業は授業改善に効果的だったとする教員の割合	80%	85.0%	85.0%	106.3	A				
					読書意欲の喚起と利用促進 ○図書の本整備と資料の充実	70%	87.2%	95.7%	91.5%	130.7	A			
		進路の実現	社会的職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる。	個々の進路実現に重点を置いた支援 ○ハローワークとの連携 ○小論文・面接などの個別指導の徹底	進路	就職・進学など進路先を決定して卒業する生徒の割合	80%	92.1%	98.0%	96.4%	120.5	A	・1/27現在、卒業予定者138人(定38・通100)中、進路決定者は95人で、進学決定者44人(定17・通27)、新規就職者17人(定9・通8)、既就職者とアルバイト29人(定4・通25)、専業主婦や進学浪人、卒業目的などの現状維持の者5人(定2・通3)である。なお、進路未決定者43人のうちの進学希望者は20人(定1・通19)、就職希望者は23人(定5・通18)となっている。今年度は、進学も就職もしないという「現状維持」の生徒が昨年度末の47人(定12、通35)から数字上大幅に減少している。特に通信制において、担任等による生徒把握がなされている結果と考えられる。未定者に対して、引き続き担任や外部機関との連携を取りながら指導、援助をしていく必要がある。 ・定時制では、ホームルームや総合的な学習の時間を使っての進路学習(CCP)については、今年度から全教員で取り組むという形が定着し、昨年度までのものから、さらに改善されてよいものになってきている。通信制の生徒に対しても、卒業予定生進路集会やステップアップウィークの行事や進路ガイダンスを通しての進路学習の機会を設けており、それらは計画通り実施できた。一方で適切な進路指導という点においては、課程の違い、極めて多様な進路希望、生徒が個々に抱えている課題などから一斉指導については難しい環境にあるといえる。担任や進路部の教員で、個々の生徒に対して指導計画を立て、援助を手厚くしていく必要がある。 ・今年度も計画通り「企業見学」、「インターンシップ」、「進路ガイダンス」「進路講座」等を実施できた。特にインターンシップにおいては、毎年トラブルが大いに心配されるが、今年度は1日目、2日目に1人の欠席者も出ないという素晴らしい結果となった。生徒のアンケートでも、インターンシップ実施後のプラス評価が8割を超えており意識が高かったことが伺える。その他、企業見学、卒業生による講話、体験型ガイダンス、3・4年次生対象の進路講座等で、できる限り外部の方からの刺激を受ける機会を設けたが、そのどれも、事後生徒アンケートでは、満足度が高いという結果を得た。次年度以降も改善しつつ継続していきたい。 ・進路のしおり、進路だより、碧雲通信、進路情報誌等での進路情報の提供は予定通り実施できた。また、ホームページを通しての情報提供もスムーズに行えた。定時制においては、CCPを利用して進路学習を行っているが、その活動内容を、時には保護者にまで伝わるようにし、保護者とともに学習できるという方法について考えていきたい。通信制については、碧雲通信をはじめ、送付する資料について検討していく必要がある。	
						進路学習や適切な進路指導を受けていると感じている生徒の割合	70%	78.2%	91.2%	84.7%	121.0	A		
						企業見学やインターンシップ、外部講師による講演会は役立つと感じている生徒の割合	70%	87.1%	84.2%	85.7%	122.4	A		
						生徒・保護者への適切な進路情報の提供 ○進路相談の実施 ○「進路だより」による情報発信 ○ホームページ・碧雲通信の活用	70%	75.7%	86.1%	80.9%	115.6	A		
						70%	+8.8	-8.5	+0.2	122.2	A			
						70%	+7.5	-6.6	+0.5	114.9	A			

評価計画					自己評価						学校関係者評価		次年度への改善策					
教育目標	教育目標達成のための指針	重点目標	目標達成のための方策	担当分掌	評価指標	目標値 [a] (昨年)	評価値 <定時> (昨年比)	評価値 <通信> (昨年比)	評価値 [b] (昨年比)	達成指数 [b/a] (昨年)	評価 (昨年)	結果と課題の記述		評価	コメント			
調和のとれた感性豊かな人間の育成	自然や文化を愛し、他の人を思いやる豊かな心の育成	安全・安心の確保	学校生活において、自らが明るく学び合い、成長し合える環境づくりに努める態度を育てる。	人権・同和	人権・同和 自尊感情をもつとともに他者を認め合うことが大切だと考えている生徒の割合	90%	88.8%	91.3%	90.1%	100.1	A	・自尊感情や他者理解について問うた項目での肯定的回答が、昨年に比べ若干ではあるが上昇した。目標値を90%に上げたが、定時制ではやや下回ったものの、全体では90%に達した。定時制における少人数指導や通信制の主体的な学習が定着してきた成果であると思われる。 ・定時制・通信制とも肯定的回答が前年を上回り、10ポイント上げ、目標値も達成できた。以前より人権・同和教育やe-ネット安心講座、性教育などを通して命や人権を尊重する教育活動を行ってきており、その都度、生徒の振り返りシートや教職員へのアンケートをもとに、少しずつ改良を加えながら続けてきた成果であると思う。 ・今年度は、目標値を100%に設定し、いじめを許さない雰囲気づくりをめざしてきた。結果は、昨年より上昇したが、100%にはいかなかった。7月に定時制生徒対象に行った「いじめに関するアンケート」の結果、「いじめはしかたがない」「いじめはなくなる」という意識を持っている生徒も半数近くいたので、「いかなる理由があってもいじめは許されない」ということを全校に訴えた。その影響もあったのかもしれないが、定時制では10ポイント近く上昇した。	A	・相談事業や相談活動についての目標値が昨年と同じで低いのはどういふことか。今後の検討材料として、目標値を高くして、更に充実を図りたい。 ・健康情報の発信について、更に活用しよう意識できるように心身の健康に関する知識など、生徒の目線に立った話題や情報を取り上げていく。 ・保健相談部だよりは、できるだけ多くの生徒・保護者に読んでもらえるように、定時制の欠席している生徒にも渡していただくようお願いや家庭宛の発送書類にあわせて発行すること等の手立てを考えていきたい。 ・必要に応じて教育相談員・スクールサポーターが得た情報をルーム担任と共有したり、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとルーム担任が協働する機会を設定したりすること等を通して、時機をとらえた生徒支援が行えるよう連携を密にしていきたい。				
						70%	+2.0	+2.9	+2.5	125.2	A							
						80%	82.3%	86.8%	84.5%	105.6	A							
						70%	+5.7	+4.3	+5.0	113.5	A							
				図書研修	生徒1人当たりの年間貸出冊数	年10冊	5.5冊	—	5.5冊	55.0	C							
						年10冊	-3.3	—	-3.3	88.0	B							
				保健相談	「保健相談部だより」、メール、掲示物などによる健康情報は、自分のからだや心のこと考える参考になると感じている生徒の割合	70%	71.3%	79.1%	75.2%	107.4	A							
						70%	+12.7	+1.1	+6.9	97.5	B							
				保健相談	学校では、先生やスクールサポーター、教育相談員の人たちが、悩みや心身の健康について誠意をもって対応してくれていると感じている生徒の割合	60%	79.2%	80.0%	79.6%	132.6	A							
						60%	+11.3	+0.9	+6.1	122.5	A							
				自ら考え行動し、自ら律する態度の育成	自律・自立	基礎・基本を身に付け、自律・自立する態度を育てる。	行事や活動を楽しむことができたとする生徒の割合	図書管理	図書管理 提供されるメール情報を役に立つと感じている生徒の割合	70%	78.8%	80.0%	79.0%		112.9	A	・生徒は遠足や学園祭などの行事を楽しむことができている。特に学園祭については事前にアンケートを実施し、生徒の意向を反映していることが満足度に繋がっていると思われる。開校以来定着してきている各行事が、更に充実したものになるように工夫を重ねていきたい。 ・「規範意識の向上は本校の生徒にとって重要課題である」という認識から、目標値を昨年度の70%から80%に変更した。特に新入生に対する年度当初のルール・マナー指導に力を入れ、また日々全教職員で取り組んでいるマナーアップ運動の効果もあり、問題行動は減少した。目標値に届かなかった原因は「あいさつ」に対する評価が低いことが挙げられる。「あいさつ」を出来るようにするには教員からの声掛けだけでなく、本人の自己肯定感や自己有用感、あるいはコミュニケーション力なども大いに関係する。それらを踏まえ、教育活動全体のなかで生徒にどのように働きかけていくかが課題として残る。 ・ステップアップウィークでの駅清掃、定時制LHRでのボランティア活動(学習)などを企画した。また宍道町内のボランティア活動への参加を呼びかけた。駅清掃ではボランティア以外の他の活動との選択であったが、多くの生徒が希望し、意識の高さを感じた。しかし授業以外の活動への自主的な参加は少なく、今後もボランティアの主旨も踏まえて呼びかけていきたい。 ・昨年度に比べて評価値が下がってはいるが、平素の清掃とごみの持ち帰り、大掃除への取り組みを通して、学校をきれいに維持しようとする本校生徒の意識は高い。生徒の中には、授業で出た消しゴムの消しかすを毎回きちんとまとめて丁寧に捨てる者もいる。しかし一方で、棚の隅やカウンターに小さなごみが捨ててあったり、自動販売機のごみ箱に校外から持ち込んだごみが捨ててあったりすることもあり、徹底されているとはいえない。ごみの持ち帰りを当たり前のこととして、また平素の清掃や大掃除を通して、校舎をきれいに使っていこうとする生徒の環境衛生及び環境美化意識、態度を更に高めていけるよう生徒への声かけ、指導をさらに丁寧に行っていく必要がある。 ・昨年度と同様に、高い評価を得ることができた。他分掌と協力して、即時に重要な情報を発信できた。また、学年会・担任と協力し、未登録者に対して、登録をしっかりと促すことに力を入れた結果でもある。今後も継続して促していきたい。ただ、分掌ごとに発信頻度が異なっているので利活用意識の働きかけが課題である。	A
										70%	+2.7	+1.3	+2.0		110.0	A		
80%	77.7%	68.7%	73.2%							91.5	B							
70%	-3.9	+5.6	+0.8							103.4	A							
保健相談	平素の清掃や大掃除にとりくみ、ごみの持ち帰りを守っている生徒の割合	80%	80.9%							—	80.9%	101.1	A					
		80%	-1.7							—	-1.7	103.1	A					
保健相談	平素の清掃や大掃除にとりくみ、ごみの持ち帰りを守っている生徒の割合	80%	86.7%							83.3%	85.0%	106.3	A					
		70%	-3.4							-6.3	-4.8	128.3	A					
情報管理	提供されるメール情報を役に立つと感じている生徒の割合	70%	79.7%							85.5%	82.6%	118.0	A					
		70%	+10.8							+10.5	+10.6	102.8	A					
地域との連携及び地域貢献	地域との連携及び地域貢献	地域の人々との交流と学校施設の開放	総務							地域交流活動の年間実施回数	40回	36回	36回	90.0	B			
											40回	-7.0	-7.0	137.5	A			
				15件	15件	15件	100.0	A										
		図書研修	地域の方々への学校図書館の開放 ○地域向け「図書館だより」の内容充実	図書研修 地域の人の平均図書館利用数	10人(月)	14人	14人	140.0	A									
					10人(月)	+3.7	+3.7	103.3	A									
					10人(月)	+3.7	+3.7	103.3	A									
図書研修	地域の人の平均図書館利用数	10人(月)	14人	14人	140.0	A												
		10人(月)	+3.7	+3.7	103.3	A												